

Niigata Forestry Magazine

にいがた山しごと情報誌

Vol.2

TAKE
FREE!!

森林・林業に興味ある方必見！
新潟県内の林業事業体を
紹介するガイドブックです！

【掲載事業体】

関川村森林組合

さくら森林組合

東蒲原郡森林組合

中越よつば森林組合

十日町地域森林組合

牛木組

ぬながわ森林組合

南佐渡森林組合



はじめに

新潟県は、県土の68%を森林が占め、全国でも6番目の面積を有している森林県です。周囲を2千m級の山々に囲まれ、ブナやナラ等の落葉広葉樹を主体とした森林は、四季の変化を敏感に感じさせてくれるとともに、豊かな森の恵みを我々にもたらしています。

戦後、先人達が苦勞して植栽した、スギを主体とする人工林は、約16万haとなり、木材として利用可能な50年生以上の林が増えてきています。

県では、これまでの建築用材としての活用他に、山に伐採後残置していた低質材をエネルギーとして活用する等、木材のフル活用により、林業者への収益還元を図るべく、取り組みを行っているところです。

近年、森林整備加速化・林業再生事業等により、作業路の延伸や高性能林業機械の普及が図られると共に、緑の雇用事業による新規参入者の促進や、技術者の育成等、生産基盤整備だけでなく、就労環境も改善され、林業先進国に近づきつつあるのではないかと思っています。

森を活用することが山を護り地域を護ることにつながります。それには「緑の担い手」の方々が不可欠です。事業主の方々を含めて、本誌に語った熱い仕事への思いをエネルギーにして、林業が産業として根ざしていた時代に一歩ずつ近づきたいものです。

森や山に興味があつてこの冊子を手にとった貴方、これを機に一歩踏み込んでみてはいかがでしょうか。

新潟県 農林水産部林政課長

古川 洋次

目次

データで見る新潟県の森林・林業	p. 2
林業への就業支援策を紹介	p. 3
林業のキホン作業	p. 4

【林業事業体ファイル】

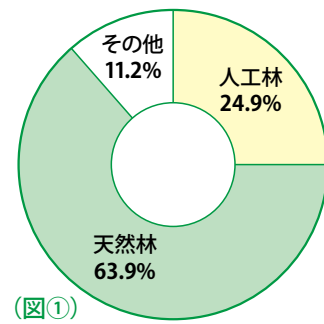
● 関川村森林組合	p. 6
● さくら森林組合	p. 10
● 東蒲原郡森林組合	p. 14
● 中越よつば森林組合	p. 18
● 十日町地域森林組合	p. 22
● 牛木組	p. 26
● めながわ森林組合	p. 30
● 南佐渡森林組合	p. 34

新潟県認定事業体一覧	p. 38
------------	-------

データで見る新潟県の森林・林業

民有林の森林資源の状況

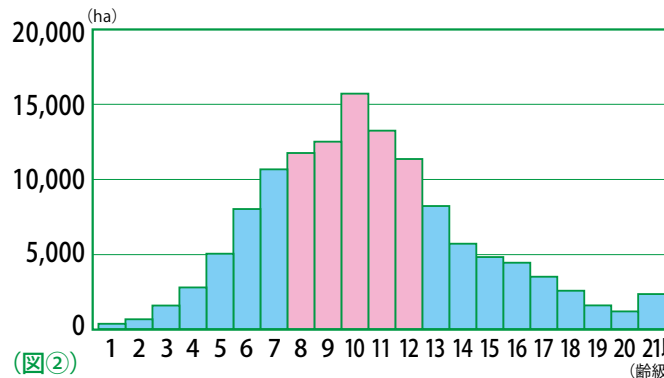
(表①、図①)
民有林人工林率は約24.9%で全国46位であり、全国平均(約46%)と比べて低くなっています。人工林はスギが主体で次いでアカマツ、クロマツ、カラマツの順となっています。天然林はほぼ広葉樹で森林面積の63%を占めています。



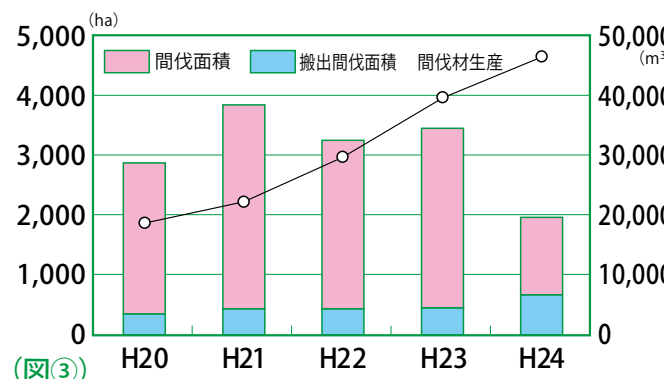
(図①)

区 分	樹 種	面積 (ha)	比率 (%)	蓄積 (千m³)	比率 (%)	
人工林	針葉樹	ス ギ	129,394	22.9	54,251	53.2
		アカマツ	5,590	1.0	1,333	1.3
		クロマツ	1,866	0.3	420	0.4
		カラマツ	1,233	0.2	436	0.4
		その他針	898	0.2	197	0.2
		小 計	138,981	24.6	56,637	55.5
	広葉樹	キ リ	494	0.1	107	0.1
		その他広	1,142	0.2	75	0.1
		小 計	1,636	0.3	182	0.2
	合 計	140,617	24.9	56,819	55.7	
天然林	針葉樹	6,150	1.1	1,713	1.7	
	広葉樹	354,705	62.8	43,474	42.6	
	合 計	360,855	63.9	45,187	44.3	
無立木地等		63,678	11.2			
総 計		565,150	100.0	102,006	100.0	

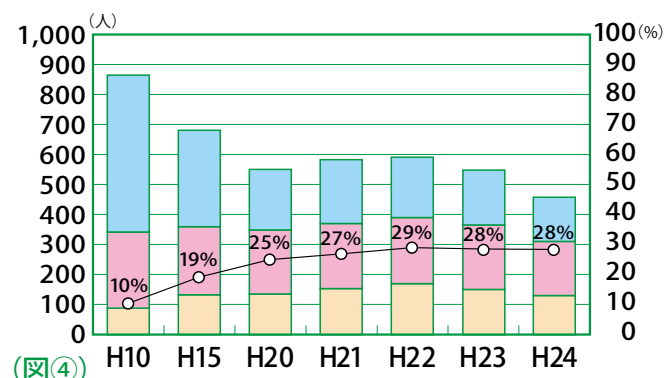
(表①)



(図②)



(図③)



(図④)

スギ人工林の齢級配置

(図③)
スギの造林は昭和30～40年代に盛んに行われ、昭和40年度には最高の年間4719haの植栽が行われました。この時代に造林されたスギは現在、8～12齢級(46年生～60年生)になり、県内で最も資源量の多い齢級となっています。

間伐面積及び利用材積

(図③)
間伐は、良質な木材の生産に必要な不可欠であり、また、森林を健全な状態に維持していくためにも、最も重要な森林施策です。左図は切捨間伐・搬出間伐面積及び利用材積を示しています。国・県・市町村・森林組合などが重点的に推進していることから面積・利用材積ともに増加しています。

森林組合森林技術員の推移

(図④)
近年では森林技術員は年々減少していますが、一方で、若い世代の割合は増加しています。

林業への就業支援策を紹介

新しく林業への就業を目指す方に対して、さまざまな就業支援策が講じられています。ここでは概要を紹介いたします。詳しくは各ウェブサイトへアクセスしてみてください。

就業前の支援策には…

林業就業支援講習

(主催・新潟県林業労働力確保支援センター)

新たに、林業への就業を希望する人を対象に20日間程度の座学・実習を行うもので、林業就業についての十分な知識や技術を得られる講習会です。具体的には、林業就業に必要な基本的な知識の講習、林業・木材産業等の施設見学、林業労働安全衛生講習、林業作業の実地講習、刈払機・チェーンソーの作業講習、林内作業車講習、小型車両系建設機械(3t未満)運転業務講習、就業・生活相談等の内容となっています。

新潟県では、平成17年度から実施し、平成25年度までに168名が修了。うち77名が林業へ就業しています。講習は例年、春に行われています。



(スマートフォン用)



(携帯用)



林業就業支援ナビ(旧 NW森林いきいきHP)
PCサイト <http://www.nw-mori.or.jp/>
携帯サイト <http://www.nw-mori.or.jp/mbl/>
(上のQRコードを読み取ってください)
新潟県林業労働力確保支援センターHP
<http://www.niigata-rinrou.com/>

就業後の支援策は…

緑の雇用・現場技能者育成対策事業



緑の雇用・現場技能者育成対策事業とは、森林組合などの認定事業体に採用された林業未経験者の方に、林業に必要な技能を学んでもらうため、同事業体を通じて講習や研修を行うことでキャリアアップを支援する制度です。一人前になるには数年かかるといわれている林業。林業の現場技能者としてのスペシャリストになるには様々な技能を習得す

る必要があります。

「緑の雇用」事業では就業年数に応じて、さまざまな技能を身につけられるよう、研修の内容をステップアップさせ、体系的に学べる研修プログラムが用意されています。(緑の雇用ウェブサイトより一部改変)



緑の雇用ウェブサイト
PCサイト <http://www.ringyou.net/>
携帯サイト <http://www.ringyou.net/mobile/>
(上のQRコードを読み取ってください)

※林業労働力の確保の促進に関する法律第5条で定める林業労働力確保改善計画を都道府県知事に認定された林業事業体

林業に就業したいけど、経験もないし、不安…という方でも大丈夫！

間伐

植栽後 20～30 年程度経過すると、造林木(スギ)同士で競争が始まり、次第に優劣が付いてくる。劣勢のものを除去し優勢の物を残すことにより、主伐時に価値の高い林を作ることを目指す。近年は、搬出間伐が重要となっており、間伐した材は建築材、合板原料、チップ等さまざまな用途に活用されている。ただし、ある程度込みあった林を伐採する場合は、かかり木が頻発するため、間伐従事者には高い技術が求められる。



主伐

林業の最終段階で、収穫とも言う。新潟県の人工林ではここまで 80 年程度かかる。写真(左)は、ブナの天然林伐採風景(架線集材)とスギ人工林の伐採木の運搬風景。



地拵え(じごしらえ)



植栽するための準備作業。スギ等の伐採跡地に残った枝条を集め、筋状に配置したり、火を入れて焼き払ったりして、植栽しやすい環境にするもの。

苗木運搬

苗木や肥料を担いで運搬。道路も何もない場所にスギが植えてあったら、かつてこのように人力ですべて運んだ証し。



基本は昔も今も同じ、昭和40年代の写真で見る

林業のキホン作業

除伐

造林木以外(スギ以外)の樹種の除去が中心だが、スギの生育不良木(病虫害被害、雪害等)の除去も含む。下刈り終了から数年を経て1～2回ほど実施される。

枝打ち

節のない優良な材を生産するために行うが、効果としては雪害の防止や病虫害からの保護などの面もある。写真はナタによる枝打(下)とはしごを使った枝打ちの様子。樹皮むけを防ぐために、基本的には晩秋から冬期の生長休止期に実施する。



下刈

苗木を植えてから10年程度、毎年行う作業。草を刈らないでくとスギに日光が当たらないため、スギが小さい時は年2回行う。



雪起し

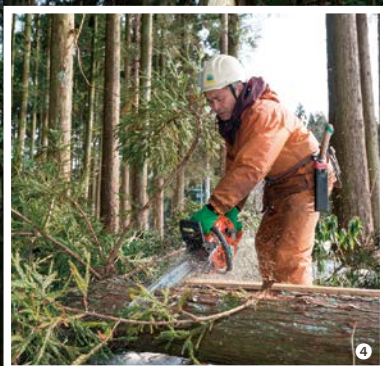


雪の圧力で倒れた造林木を、雪消え後、すぐに縄などで引っ張り起こす作業。縄は外さなくても次第に腐ってなくなる「わら縄」がよく使われる。上の写真は、雪解け時期の若齢スギ林の状況。

根踏み(ねぶみ)

苗木を持ち、左右に揺すりながら足で踏むことで、苗木が抜けたり流れたりすることを防ぐ。





①プロセッサの利かない部分は尺棒を当て、長さをそろえて玉切りにする
②グラブ付プロセッサで最高速の枝払い・玉切りを実現



関川村片貝地区。伐った材をプロセッサで造材する作業中。材はトラックに積みやすいように写真手前の道路側にまとめている

林業事業体レポート File 01

関川村森林組合

【岩船郡関川村】



sekikawa

恵まれた地質が育んだ良材 機械化で地域の担い手を確保



①胎内市荒井浜森林公園で松くい虫の被害を受けたマツの伐倒駆除作業中。公園内には重機が入れないので全て手作業で行われる ②左から現場を案内してくれた林産課主任の松田晃太さん。森林技術員の高橋保さん、吉田敬司さん、佐藤栄次さん、板越弘幸さん ③倒した木は、1メートル位の長さに玉切り・集積後、ビニールで覆い、薬剤でくん蒸する

総面積の林野率が87.6%という自然豊かな関川村。中山間地だが比較的積雪量も少なく、風当たりも強くない土地なので、根曲がりや腐れのない、色も良い木が育つという。地質、気候に育まれた「素直な木」は、「使いやすい」と高評価。常に注文に迅速に対応できるよう、土場では毎日、山から運んだ材を規格ごと、用途ごとに選別するなど、信頼のブランド化に努めている。

平成5年からは間伐促進のために機械化を推進。現在はグラブ付バックホウ3台、プロセッサ1台、スイングヤーダ1台、フォワーダ3台をそろえる。森林技術員は素材生産を行う林産班と森林整備を行う造林班に分かれ、林産班が高性能林業機械を使って利用間伐のための伐採・搬出を担当。機械化により若手スタッフも効率よく仕事ができるようになり、生産量も上がった。資格取得など人材育成にも積極的だ。今、村では平成27年の稼働を目標に木質バイオマス発電事業に取り組んでいる。森林整備の促進につながる事業と組合がどう関わっていくか、期待が高まる。

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

安全管理に重点を



小池 紀浩 さん

年齢:45歳 林業経験:15年

Koike Norihiro

組合に入ってからはずっと林産班で、主に伐採の仕事を
行ってきました。どの現場でもそうですが、この仕事は危
険がつきもの。常に緊張の連続です。事故を起こさない
ように安全管理に重
点を置いて、細心の
注意を払って仕事に臨
んでいます。木登り
が得意なので、年に
何年かは特殊伐採を
担当することもあり、
良い経験になります。
今後も幅広く仕事を
覚えていきます。



ずっと続けたい仕事



横山 友幸 さん

年齢:36歳 林業経験:12年

Yokoyama Tomoyuki

結婚をきっかけに関川村に来ました。もともと自然が
好きなのですが、関川村は山と川に挟まれた自然に恵ま
れた良いところなので、良い仕事に就いたと思っています。
技術が身に付いてく
ると仕事もどんど
面白くなってきま
すね。うちの職場は若
手が多いので、話し
が合うところも楽し
いです。みんなで仲
良く、楽しく、組合
を盛り上げていき
たいと思っています。



①入社してすぐに重機の資格を取得、5ヶ月目にしてグラブ付ト
ラックを操る、オペレーターの織田憲一さん。前ページの片貝地区の
現場で集荷してきた材を仕分けする ②材は3メートル、4メー
トルなど、長さや用途ごとに選別して管理する ③取材中にも何台も
の大型トラックが出入りし、材を積んで出ていく。0.13ヘクタールの
土場は平成23年に舗装工事が行われた



【事業体Data】



関川村森林組合

住所／岩船郡関川村大字上関1021番地3 電話／0254-64-1249

設立／昭和36年 資本金／2,520万円

従業員数／30人(森林部門23人)

勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／関川村

主な従事業務内容／森林整備、木材生産販売、生シイタケ販売



【事業主コメント】



関川村森林組合

代表理事組合長 平田広

近年は再造林や新たな植林が少なくなっている
のが現状です。将来的に長続きさせるには植林や
育林を進めて行く必要がありますし、職員や作業
員の待遇改善も重要な課題とっております。当
村は農業が基幹産業でこれといった職場も少ない
ので、林業は地元の大事な産業と捉え、前向きに
取り組んでいきたいと思っています。



④国道沿いにある大きな看板は、シイタ
ケ生産も行う、関川村森林組合のキャラ
クター ⑤「あらかわしいたけ」は年間約
450 t 生産。県内でも有数の生産地とし
て知られる



林業事業体レポート File 02

さくら森林組合

【新発田市】



④ 組合では個人宅の特殊伐採も行う。周りに建物があり、簡単に伐り倒すことができない木はクレーンで吊りながら上から順に枝を切っていく ⑤ 毎年、胎内市の中条小学校で行われる「つばさっ子秋祭り」では子ども向けのチェーンソー体験学習が大好評 ⑥ 平成25年4月には26年開催の「第65回植樹祭」に向けてのプレイベントを行った。会場は昭和47年に植樹祭が開催された胎内平



① 森林技術員二人で利用間伐を行っていた、新発田市荒川の現場。左の池田さんの手に黄色いクサビが見える ② 伐った間伐材を運びやすいように道路側に向かって木を倒している ③ 倒した後は、断面を確認。基本に忠実な伐り方をした、とてもきれいな切り口

林業の“よろず相談所”として 地域の森林整備活動に力を注ぐ

平成17年に黒川村森林組合（胎内市）、さくら森林組合（新発田市）、北蒲南部森林組合（阿賀野市）が合併し、さくら森林組合を設立。胎内市から阿賀野市まで広範囲にわたり施業を行っている。組合のモットーは「林業に関することなら何でもやる、よろず相談所」。主な仕事は伐採・間伐だが、松くい虫の防除、神社や個人宅の庭木の特殊伐採、薪の販売などの専門業のほかに、地元森林所有者向けにチェーンソーの取り扱い説明会や安全な伐倒技術の講習会を開催。中条小学校の秋祭りでは子どもチェーンソー体験教室が恒例イベントになっている。「木に関することなら何でも気軽に相談してほしい」というスタンスで地域の森林整備に力を注いでいる。

森林技術員は30名。冬は休みを多く取り、夏に出動を増やし年間の作業量を調節することで、通年雇用を実現した。平成22年には念願の高性能林業機械ハーベスタ・プロセッサを導入し、作業の効率化で搬出コストを削減。今後も地域にアプローチしながら林業の魅力を伝えていく。

受け口の深さは直径の約1/3。斜め伐りの角度は30度から45度が望ましい。大雨が激しく打ち付ける中、慎重に作業を行う、前田清一さん

緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち

ストレスのない仕事です



池田 謙一郎 さん

年齢:22歳 林業経験:3年

Ikeda Kenichiro

最初の一日目からとても厳しい仕事で驚きました。チェーンソーで他の人が伐った木を集めるような作業でしたが、その日は雨で普段、山に登った経験もなかったため、足場も悪く、大変でした。今は慣れましたよ。山の中で仕事をしているとストレスが溜まりません。とても静かで、天気の良い日は最高です。先輩たちの期待に応えられるように、一生懸命頑張りたいです。



高く売れる材を出す工夫を



前田 清一 さん

年齢:40歳 林業経験:13年

Maeda Seiichi

木を伐るのも好きだし、重機の操作も好き。この仕事に向いているのかも知れませんが、でも大変な仕事だと思えます。自分の伐り方によって価格が変わるので、その駆け引きも面白い。高く売れるように細心の注意を払い、また、何メートルの材が売れるかなどの情報を収集して、売れる材を出す工夫もしています。これからは若者への技術指導などもやっていきたいですね。



【事業体Data】



さくら森林組合

住所／新発田市中倉48番地2 電話／0254-29-0600

設立／平成17年(合併) 資本金／5,330万円

従業員数／37人(森林部門30人)

勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／新発田市、胎内市、阿賀野市

主な従事業務内容／特殊伐採、森林整備、病虫害防除

【事業主コメント】



さくら森林組合

代表理事組合長 五十嵐 弘行

山の仕事は時間がかかる。それが魅力でもあり、難しいところでもあります。しかし、自分がやった仕事は確実に見えるのでやりがいは大い。ぜひ、若者にもっと興味を持ってほしいと思う。この地域は山を持っている人たちが多くいます。何か困ったことがあったら何でも相談できる組合として、地域の方々にとって身近な存在でありたいと思います。



①新発田市上石川のスギ林の伐採現場。ハーベスタ・プロセッサで枝払い・玉切りを行っている ②もう一人はグラブで伐った材を仕分け、トラックに積み込む作業 ③平成22年に導入した高性能林業機械ハーベスタ・プロセッサが作業を効率化 ④左から現場を案内してくれた業務課係長の加藤大樹さんと森林技術員の阿部徹さん

林業事業体レポート File 03

東蒲原郡森林組合

【東蒲原郡阿賀町】



④倒れた木は枝を払ってから玉切りをする。秋から冬の時期は、木が水上げをする前で、幹に含まれる養分も少ないため乾燥しやすく、切り口のきれいな木が採れる ⑤狙った方向に木が倒れるかを見届けることも大切 ⑥左から森林技術員の酒井勝也さん、清野幸男さん、酒井輝雄さん、石川健二さん。右の荒井晃治さんは現場管理を担当



作業道の整備と高性能機械の活用 新しい林業の在り方を考える



①組合の敷地内にある国産材加工施設は昭和57年に建てられた。丸太の周囲を削って四角い材にするなど、注文に合わせて加工する。不要な材はおがくずに ②工場長の伊藤久平さん。「木は1本1本性質が違うから、どう加工するか見極めるのが大切です」と話す ③林業が盛んなこの地区では昔から加工業も行っていた。加工施設の右側部分は廃校になった学校の体育館を改造したもの



取材で訪れたのは東蒲原郡阿賀町日出谷平瀬(びょうせ)地区の県行造林「平瀬(びょうせ)団地」内の利用間伐現場。雪の積もった山は立っているだけで足先から寒さが伝わってきたが、現場の皆さんは黙々と作業をこなしていた。

町の面積の約94%が森林で豊富な森林資源を有する阿賀町は、昔から林業が盛んな土地。東蒲原郡森林組合では、現在、通年雇用9名と期間雇用3名の森林技術員を雇用。また、敷地内に加工施設を持ち、組合員はもちろん一般からの製材受け付けと加工された材の販売を行っている。近年の木材産業の停滞や森林所有者の世代交代に伴い、管理の行き届かない森林も増えているが、その対策として、現在、力を入れているのが森林整備を推進するための林道・作業道の整備だ。平成24年にはプロセッサを導入し、作業の効率化も図っている。阿賀町では間伐による木質バイオマス活用に取り組んでいるが、組合でも良い材を消費者にアピールするための新しい林業の在り方、可能性を追求している。

雪で地面が白く覆われた現場にチェーンソーの音が鳴り響く。受け回を入れる清野幸男さんの足元に木くずが飛び散る

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

自分の手で木を伐る喜び



清野 幸男 さん

年齢:49歳 林業経験:5年

Seino Yukio

農業をはじめ、自然に関わる仕事をしてきました。林業もまた、自然の中での作業で四季の変化を日々、感じられます。私は重機による伐倒よりも重くてもチェーンソーを使って自分の手で木を伐るのが好きです。思ったようにきれいに伐れたときはとても気持ちが良いです。夏の暑いときや冬の寒いときは大変ですが自然相手だからしょうがないですね。



さらに仕事を極めたい



石川 健二 さん

年齢:31歳 林業経験:13年

Ishikawa Kenji

祖父が林業をやっていたので自然とこの仕事を選びました。始めた頃は夏の下刈りが体力的にも厳しくて大変でしたよね。好きな仕事は伐倒です。山の仕事の魅力は、静かな山の中で自分のペースで作業ができること。ずっとこの仕事をやってきたから、今では他の仕事は考えられません。これからもさらに技術を磨き、仕事を極めていきたいと思っています。



【事業体Data】



東蒲原郡森林組合

住所／東蒲原郡阿賀町向郷乙515 電話／0254-95-2016
設立／平成8年(合併) 資本金／1億766.5万円
従業員数／21人(森林部門10人) 勤務時間／8:00～17:15
主な勤務地／阿賀町
主な従事業務内容／森林整備、木材加工販売

【事業主コメント】

一昔前までは木の使い道は住宅資材と決まっていたが、時代は変わりました。今、林業に携わる者は木を育て、販売して終わりではなく、良い材をどのように活用するかまでアピールしなければなりません。消費者が木にもっと興味をもってくれるように伝え、商品開発などの提案が必要だと考えています。



東蒲原郡森林組合
代表理事組合長 石川 正文



①作業内容を確認する荒井さんとオペレーターの酒井さん。酒井さんは林業経験17年。重機は何でもこなすが特にプロセッサのオペレーターとして現場の第一線で活躍している ②グラップルで伐倒された木の根元をつかんでカッターで枝を除去していく ③枝払いと玉切りを効率的に行えるプロセッサで作業効率が格段にアップした ④丸太の曲がり、くさり、色などを見て、選別し、フォワーダで運ぶ準備をする。グラップル付スイングヤーダのオペレーターは石川さん

中越よつば森林組合

【長岡市】



作業道・高性能機械・人材育成の
3本柱で提案型林業を実施



雪は積もっているが青空が気持ちいい、長岡市(旧和島村)根小屋の利用間伐現場。作業道を作るための伐倒が行われていた。右はフォレストワーカーの高橋さん



①伐倒はバックホウとセットで木を倒す方法とチェーンソーで伐る二手に分かれて行われた ②こちらはチェーンソーでの伐倒。受け口を作るため斜めに伐り込みを入れている ③左からフォレストワーカーの高橋貴重さん、奈良場達弥さん、現場管理の佐藤正佳さん、フォレストワーカーの久住知也さん



④組合敷地内にある小径木加工施設。平成10年に立ち上げた ⑤県内でも数社しかない木材防腐ラインを完備。防腐処理の依頼も多い ⑥右は円柱棒の片側を先研ぎしているところ。工事現場用の土木資材や公園の柵の支柱となる杭に使用される



間伐材を生かし、付加価値をつけるために小径木加工所や防腐加工所、木屑焚きボイラーによる乾燥施設などの専門施設も立ち上げた。間伐材ベレットやチップの価格は残念ながら高くはないが、それまで山に捨てていた残材を循環利用できる上、山をきれいにできるので理想的だ。今後は間伐材を使ったオリジナル製品も検討している。

平成21年に長岡地域森林組合、小国町森林組合、刈谷田森林組合、三島郡森林組合が合併。中越よつば森林組合は県内で最も組合員の多い、広域の森林組合だ。合併をきっかけに事業を見直し、現在は森林所有者へ地域の実情に合った利用間伐の取り組みを進め、一定面積を集約し、団地化することによって低コストな間伐実施を実施する「提案型林業」を推進している。事業量を確保するためには高性能林業機械や運搬トラックが入る作業道が不可欠と県内でも、いち早く作業道の整備に取り組んできた。さらに高性能林業機械の活用や良いオペレーターを育成することで生産性の向上とコストダウンを図っている。

緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち

チームワークを大切に



久住 知也 さん

年齢:41歳 林業経験:15年

Kusumi Tomoya

15年経つてようやくこの仕事に慣れてきた感じですが、いろいろな人と組んで仕事をすることが多いのでコミュニケーションが重要になります。日々、危険を伴う緊張感のある現場なので、個々を信頼しないとやっていけない。現場の人数も少ないので自然と仲間意識も強まります。一番大事なのは仲間。みんなが気持ち良く仕事をできる環境を作っていきたいと思っています。



後世にも生かせる作業道を



奈良場 達弥 さん

年齢:28歳 林業経験:10年

Naraba Tatsuya

山好きの祖父と一緒に小さい頃から山登りをしていて、中学生のときには長ノコを持って枝打ち作業もやっていました。今は作業道作りに興味があります。最初に山の中を全部歩いて回り、土量や傾斜角度なども考えて作ります。良い作業道を作れば、搬出作業が終わった後の作業でもずっと活用することが出来ます。責任のある仕事ですが、やりがいも確実にあります。



①プロセッサで枝払い・玉切りした材を道の路肩に集積している ②バックホウで伐採後に土の中に残った根を抜いて、地面をならす ③良い丸太にするために伐倒した材の伐り口を平らに成形する ④きれいに整えられた作業道。完成すると750メートルもの距離になる ⑤休憩中は和やかな雰囲気。左から久住さんと高橋さん



【事業体Data】



中越よつば森林組合

住所／長岡市雲出町字前田4421 電話／0258-21-4525

設立／平成21年 資本金／1億7,997万円

従業員数／55人(森林部門32人)

勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／長岡市、見附市、出雲崎町

主な従事業務内容／森林整備、木材加工販売ほか

【事業主コメント】

本所、小国事業所、刈谷田事業所、三島事業所をあわせると社員は55名。一昨年あたりから売り上げが上昇し、やつと軌道に乗ってきたと安堵しています。やはり山と木が好きじゃないと林業の仕事は務まらない。私自身ずっと山の手入れを行ってきました。木は生きものだから愛情をもって関わっていくこと。それが私のモットーです。



中越よつば森林組合
代表理事組合長 小熊 順一

枝打ち作業をする森林技術員の根津正和さん。作業の際は必ず胴綱を巻いて行う。黄色いツバのついたヘルメットは枝打ち時、頭上の枝を切ったときの木くず除けに活躍

森林整備への取り組みと豊かな資源を生かした食品加工業

注目すべきは組合の売り上げの45%以上を占める食品加工部。地域経済や雇用面でも重要な役割を果たしており、地元の山菜・野菜を使った安心・安全な商品は大手食品メーカーからの信頼も高い。今後は、食品加工品のブランド化とともに林業の原点である森林整備の推進が課題。美しい地元の山を守るためにも、組合の責任は大きい。女性森林技術員2名の活躍をはじめ、若手の人材育成にも力を入れている。

平成16年、十日町森林組合と小千谷地域森林組合が広域合併して誕生した、十日町地域森林組合。森林に恵まれた地域だが国内でも有数の豪雪地帯。寒さをしのいで育った木は強度や緻密な年輪が高く評価されるが、雪の重みで根曲がりした木は加工しにくいなどの問題も抱える。冬場は除雪作業など山仕事以外も確保し、通年雇用を実現。平成26年現在、森林整備を行う森林部12名、木材の伐採販売を行う林産部7名、地元で採れた山菜を使った食品加工部20名を通年雇用し、事業を展開している。

緑の担い手を目指そう！
にいがた山しごと情報誌



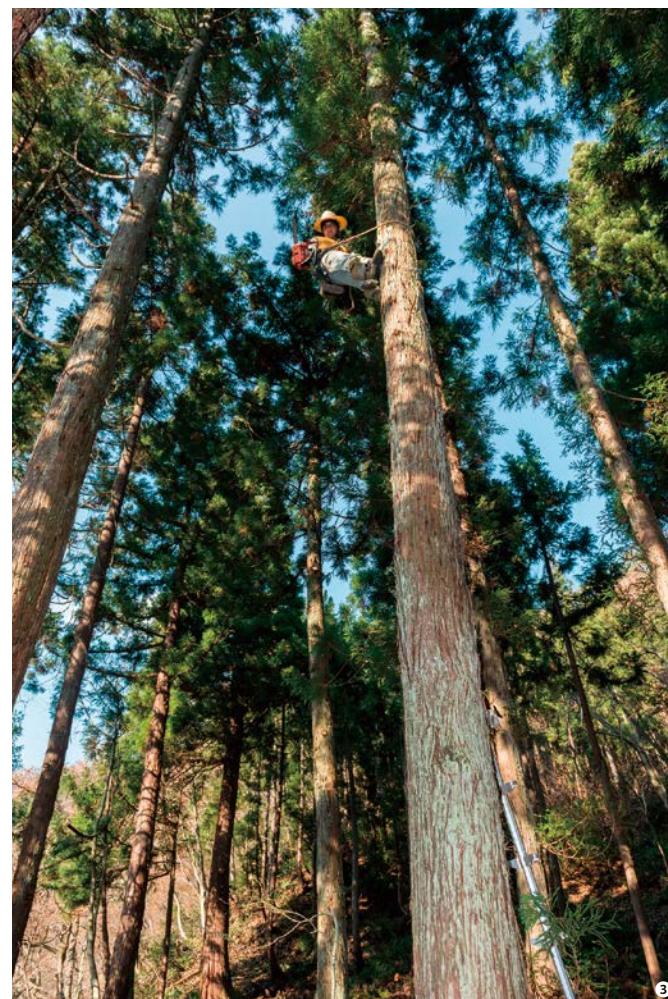
Niigata Forestry Magazine vol.2

林業事業体レポート File 05

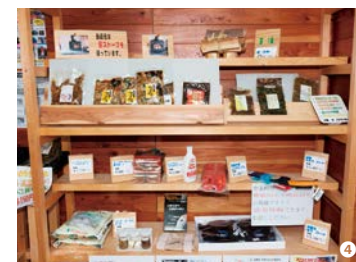
十日町地域森林組合

【十日町市】

tokamachi



①枝打ち作業のときの木登りには一本梯子を使う。一番高い所は8メートルにもなる ②切り倒した木は一定の長さに玉切りし、枝払いをする ③森林技術員にとって、高い木の上での作業は日常茶飯事。見ている方が圧倒されてしまう高い木の上で巧みな枝打ちの技を見せる



④社内には、食品加工品を展示・販売するコーナーが設けられている ⑤組合敷地内に併設された食品加工所。平成22年に山菜工場の改装工事を行った際に手詰めから機械詰めを中心とした製造ラインにし、作業を効率化した ⑥「野沢菜漬」、「水煮なめこ」、「舞茸ごはんの素」など、人気の商品は電話FAXにて注文を受け付け。贈答用にも好評だ

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

常に緊張感があります



池田 崇直 さん

年齢:28歳 林業経験:4年

Ikeda Takanao

林業に興味があり、この仕事に就きました。最初の頃は体力的にも厳しくて、先輩たちについていくのが大変でした。少し間違えると命に関わる仕事なので、今でも常に緊張感があります。厳しい反面、自分のやったことが残る仕事はやりがいがあります。きれいな山は本当に気持ちが良いものです。山や自然が好きな人におすすめしたい仕事です。



山に関わる仕事を志して



村山 武志 さん

年齢:52歳 林業経験:19年

Murayama Takeshi

東京でシステムエンジニアをやっていたんですが、仕事が好きになれなくて。登山が好きで、山に関わる仕事を求めて、初めて十日町へやって来ました。自然に囲まれた十日町は、とても居心地が良く、今も大好きです。仕事では枝打ちが特に好きですね。現場の作業は大変ですが、自分なりにやり方を工夫しながらコツコツ少しずつ進められるのが良いところだと思います。



①慎重に足場を確認しながら木を降りる、森林技術員4年目の池田崇直さん。枝打ち作業は登って枝を切っては降りて、次の木にまた登ってのくり返しで体力を要する作業だ ②「この前、作業が終わった場所です。とてもきれいになっているでしょう」と森林技術主任の村山武志さんが教えてくれた。手入れされた森林の美しい景観と満足感が次の仕事の活力になるという ③一本梯子は根元に地面に固定する爪があり、爪を木の根元に差し込んでから梯子を木に立てかけて登っていく ④枝打ち後は森林内に光が行き渡ってとても気持ちが良い。この日の現場は3人の森林技術員でチームを組んで作業を行っていた



【事業体Data】



十日町地域森林組合

住所／十日町市大黒沢1789番地1 電話／025-758-3115

設立／平成16年(合併) 資本金／1億6,000万円

従業員数／43人(森林部門19人)

勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／十日町市

主な従事業務内容／森林整備、林産販売、食品加工

【事業主コメント】

年々、林業を取り巻く状況は厳しくなっていますが、現状のままで山が荒れてしまえばかなりです。今こそ、森林の再生をしなければならぬと思います。美しい日本の森林は私たちの貴重な財産です。山を持っている人たちに「伐つたらまた植えたい」と思っていたできるように、森林の整備に力を入れていきます。



十日町地域森林組合
代表理事組合長 須藤 誠也

林業事業体レポート File 06

牛木組

【上越市】



環境保全から林業を継続しつつ
「うしきのこ」ブランド化を目指す



原木シイタケは菌床シイタケに比べ、香り高く、肉厚で歯応えがある。ハウスの中でシイタケを収穫する、森林技術員1年目の萩原さん

上越市の総合建設業「牛木組」が、林業認定事業体となったのは平成16年。昭和54年に妙高市の山林を購入したことをきっかけに近隣の山林を所有するようになり、現在120ヘクタールの所有林管理を中心に森林整備を行っている。もともとは先代社長長の山好きから始まった事業だが、平成16年には「優良林分コンクール」で林野庁長官賞を受賞するほどの技術力を誇る。林業の経営は厳しい面も多いが、同社は自然環境の保全を重要視。社有林の整備を通じて近隣の山林所有者の意識を高めたいと意欲的だ。

シイタケ栽培は森林事業の冬場の仕事確保のため、平成16年から同社の山林を利用して始めた。現場作業員13名のうち10名は建設業と兼務し、3名が森林技術員として冬場、原木栽培のシイタケ生産に携わる。平成20年からはハウス栽培も開始し、現在はハウス3棟で生産している。肉厚で香り高いシイタケは、社名をもじり「うしきのこ」と命名。さらなるブランド化を目指す。

④初代林業担当・牛木順作さん。順作さんを頭に林業班が結成された昭和50年代、名立区を中心に間伐・枝打ちなどの手入れをし、地域の模範となったという ⑤年に1回、近隣の小学生や園児を呼び、原木シイタケについての説明を行っている ⑥平成25年、モンゴルから視察団が来訪し、原木シイタケ栽培施設を見学した ⑦実験的にモノレールを使った材の搬出作業。地形が急峻な現場では、フォワーダなどによる作業路開設が不可能だった



①1回収穫した後に次の発生サイクルまで木を休ませる。ほど木をチェックする白鳥さん ②「うしきのこ」は、「うみてらす名立」や上越市のスーパー「イチコ」で販売。インターネットの取り寄せサイト「47CLUB」でも購入できる ③温かいハウスの中は、自社林で出た間伐材をボイラーで燃やし温度調節

緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち

森林整備事業につなげたい



白鳥 巧さん

年齢:35歳 林業経験:6年

Shiratori Takumi

自分の作ったものを「おいしかった」と反応をいただけるのは、とてもうれしく、励みになります。今、市場はほとんどが園床シイタケです。原木シイタケは、手間がかかりますが、昔ながらの作り方の原木シイタケを広めたいですね。また、原木シイタケ作りにはきちんと手入れをした山林が必要で、シイタケ作りをもとに森林整備事業にもつなげていきたいと思っています。



「うしきのこ」を知ってほしい



荻原 雅裕さん

年齢:19歳 林業経験:1年

Ogihara Masahiro

高田農業高校の林業コースを卒業しました。昔から体を動かすことが好きなので山での作業は楽しいです。シイタケ栽培は学校でもやっていたので、原木シイタケだからこそ、おいしい「うしきのこ」をもっとたくさんの人に知ってもらいたいですね。木を伐るなど、森林整備の仕事には、まだまだ慣れていません。危険も伴うので怪我をしないように気をつけます。



①ほど木が並ぶ美しい山林。整備された山林を所有していたからこそ、シイタケ作りに取り組めた。「管理すれば山はこんなにきれいになるという見本を見せて、山林所有者に働きかけたい」と白鳥さん ②所有林では植栽も行っている。小さな木々の成長が楽しみだ ③シイタケを一つずつ手で摘んでいく。路地栽培での収穫は、現在3割ほど ④左から森林技術員の荻原雅裕さん、指導者の高澤紘昭さん、森林技術員の白鳥巧さん、佐藤昇さん、パートの笠原スミエさん



【事業体Data】



牛木組

住所／上越市名立区名立大町1630番地1 電話／025-537-2316
設立／昭和38年 資本金／3,000万円
従業員数／87人(森林部門5人)
勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／上越市
主な従事業務内容／土木工事、建築工事、森林整備、特用林産物生産

【事業主コメント】

弊社は建設事業を主体とし、ことしで会社設立51年を迎えます。森林事業での利益は正直、厳しいですが、先代も林業で利益を得るという考えではなく、森林を守るために始めたといえます。私も美しい山々は未来の世代に受け継いでいくべき財産だと考えます。自然とともに共存できる環境作りという面からも森林整備を続けていきます。



牛木組

代表取締役 牛木 藤正



林業事業体レポート **File 07**

ぬながわ森林組合

【糸魚川市】



植林から木材市場まで、さまざまな事業を行う、ぬながわ森林組合。取材に訪れたのは、組合から車で約15分の特設伐採の現場。胴綱を巻き、腰にチェーンソーを下げた森林技術員がぶり縄を使って木に登り、まずは枝払いをしてから始めは地上7メートルの高さ、次は4メートルの高さで木を伐っていく。揺れて足場が悪い中での難度の高い仕事は、見ているだけでも緊張が伝わった。

現在、森林技術員は27名。そのうち通年雇用は7名。残りの20名は短期雇用や臨時雇用契約で年配者が占めている。7〜8年前から長期に渡って林業の仕事を続けていくために通年雇用で若い人材を起用するように切り替えた。また、搬出コストを削減するためにグラップル付きバックホウ、造材用のプロセッサ、運搬用フォワーダなどの高性能林業機械を積極的に導入。若い人材の起用と高性能林業機械の活用でこれからの林業に取り組む。森林技術員には高性能林業機械の資格講習を受講させ、人材育成にも力を入れている。

これからの林業のキーワードは 高性能林業機械と若手の育成

①高い木の上での作業は危険がつきもの。胴綱は補助を合わせて2本巻き付けて登る。ひもで吊るした小型チェーンソーのほか、くさびやハンマーなども持っていく ②チェーンソー作業は足場をしっかりと確保し、正しい姿勢で行うことも大切 ③田んぼの upper に植えられた木々は日陰を作るので田んぼに悪影響。強風で倒れてくる恐れもあり、伐採することに。最近はこのような個人宅からの特殊伐採の依頼も増えてきたという



高いところは得意という西内さん。この日は7メートルもの高い位置での特殊伐採を行った

森林技術員の中でも特殊伐採の一番の腕を持つ、西内秀夫さんが「足場が安定していないから、伐る瞬間は揺れて怖いですよ」ともらす。自分の方向に木が倒れてこないように角度を見て慎重に作業する

緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち

自然と触れ合えるのが魅力



西内 秀夫さん

年齢:64歳 林業経験:5年

Nishiuchi Hideo

電気屋で電柱に登って作業する仕事を37年間やっていましたが、体調を崩して休職。チェンソーも使っていたし、高い所での作業は慣れているということから、この仕事を選びました。林業は自然と触れ合いながら仕事ができるので、とても気持ちよく作業できます。現在は特殊伐採などもやっています。難しい仕事ですが成功するととてもうれしいです。



厳しい仕事こそ、笑顔で



八木 栄一さん

年齢:46歳 林業経験:1年

Yagi Eiichi

緑の雇用1年生です。これまでいろいろな仕事に就いてきましたが、自然の中で仕事ができるのが良いですね。天候に大きく左右される仕事なので夏と冬はとても厳しいですが、ベテランの先輩たちにいろいろ教えてもらっています。皆さん、辛い仕事を笑いながらこなしているのが素晴らしいです。私も先輩たちのように何でもできるように努力しています。



【事業体Data】



めながわ森林組合

住所／糸魚川市南押上2丁目13番6号 電話／025-552-1533

設立／平成5年(合併) 資本金／1億5242万円

従業員数／75人(森林部門32人)

勤務時間／8:30～17:00 主な勤務地／糸魚川市

主な従事業務内容／森林整備、木材販売、食品加工

【事業主コメント】

これからの林業は機械を使う現場がますます増えていくでしょう。当組合では積極的に高性能林業機械を導入し、若い森林技術員に運転技術をなるべく早く習得できるように指導しています。現在、森林整備などの業務部で約30人、食品加工などの食品部で約30人の従業員と雇用契約を結んでいます。欠員が出た場合などに森林技術員の求人募集をしても応募が少ないのが実状です。今後も募集をしていく予定ですので、やる気のある方の応募を待っています。



めながわ森林組合

代表理事組合長 **大矢 弘**



①伐採された木をグラブでつかみ、フォワーダに積み込んで搬出する。現場は水はけの悪い土地で、重機の重みでさらに地面に圧力がかかり、ぬかるみで大変な状態に ②オペレーターの山崎初男さんは作業道作りの講師の経験を持つ、スペシャリスト。「作業道の付け方によって作業効率が変わります」 ③組合が運営する木材市場 ④オペレーターは森林技術員として経験年数7年目の恩田正宏さん

南佐渡森林組合

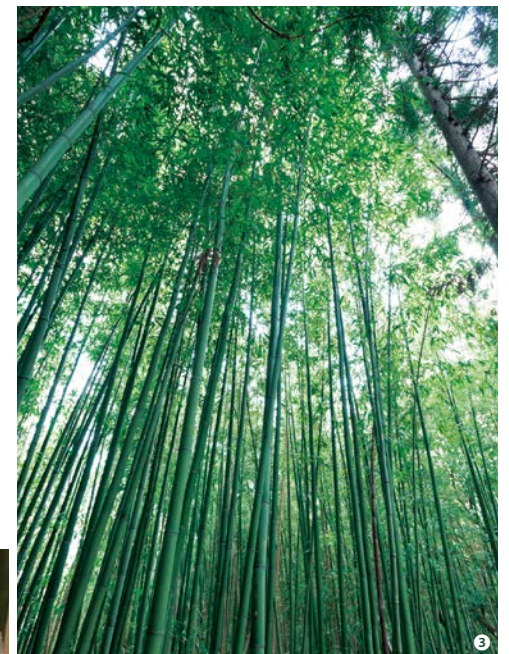
【佐渡市】



① 菊池さんが手にしているのは2メートルの一本梯子。現場によっては2本つなぎ合わせて4メートルの一本梯子と使い分ける ② この日は二人で枝落としを行った。危険を伴う傾斜地なので上下作業・接近作業は禁止



チェーンソーで伐ると木に傷が付く恐れがあるので手ノコを使って枝落としを行う、森林技術員の菊池さん。2メートルの一本梯子なので鋼網は着用していない



③ 赤泊の竹加工所付近の美しい竹林。かつては佐渡の主要産業だった竹を見直したい ④ 組合の試作品「親子で作る竹3点セット」。自然な緑色が魅力の竹は、座ったときの柔らかい感触も好まれる ⑤ 竹の移植ゴテは平成26年に新潟県で開催される「第65回植樹祭」で配布される ⑥ 赤泊工場竹加工所にて、慣れた手つきで移植ゴテを作る小田輝美さん

森林整備とともに進めたい 佐渡の竹を生かした新しい林業

訪れたのは佐渡市羽茂大橋の枝落とし作業現場。木の枝が伸びて周囲の枝と重なり、森林の日当たりが悪くなり、木の成長を妨げる。余計な枝を付け根から伐る作業は木の成長が止まる冬に行われている。急斜面で足場も悪い中、若い森林技術員が一本梯子に登り、手ノコで丁寧に枝を伐っていた。

平成14年に南部地区の三つの組合が合併した南佐渡森林組合の主な業務は、間伐を含めた森林整備。製材工場も二つ持っているが、昔から上質な竹の産地で知られる赤泊地区では、昭和61年に竹の加工工場を開設し、自生する竹ですだれや竹垣などの竹製品を生産してきた。当時は竹製品や竹材は内地からも高い需要があった。現在は竹製品の開発による竹の利用拡大と荒廃が進む竹林の整備推進が課題。季節風が強く、風による被害が少ないこの地域では、まっすぐな木が育つ。材は島内で消費されるが、もっと広く良材をアピールするため佐渡市では平成20年に佐渡杉ブランドを施行。組合でも南部地区の竹を使った製品提案で、佐渡の林業活性化に取り組んでいく。

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～



菊池 一広 さん

年齢:29歳 林業経験:10年

Kikuchi Kazuhiro

学んだやり方をさらに工夫

手を使った分だけ森はきれいになります。小さな苗から世話をしていた木が大きくなると自分が世話してきたんだなとうれしく思います。10年やってきたけど難しい仕事です。まだ自信はありません。いつも思ったような結果を出せれば良いですが、そのためには工夫が必要です。現場で学んだやり方に自分なりの考えを取り入れるなど、考え方を広げていくのも面白いです。



信田 裕也 さん

年齢:25歳 林業経験:5年

Shida Yuya

見本にしたい先輩たち

最初はアルバイトから入って、皆さんに仕事を教わりながらやってきました。魅力は親方の人柄でしょうね。个性的で面白く、仕事以外にも見本にしたい先輩たちに恵まれている、良い職場だと思います。今日の枝打ち作業のように、下の方から枝の付け根を伐る作業を進めていくと最後にはきれいな木になります。仕事の成果が目に見えるのは、とても気持ちが良いです。



【事業体Data】



南佐渡森林組合

住所／佐渡市羽茂本郷1921-1 電話／0259-88-2017
設立／平成14年(合併) 資本金／5,400万円
従業員数／20人(森林部門10人)
勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／佐渡市(羽茂地区、赤泊地区)
主な従事業務内容／森林整備、原木販売、製材加工、竹加工

【事業主コメント】

当組合は、現在、部門間協力による少数精鋭の人材配置と再度見直しによる経費削減を進めています。現場に関しても効率の良い仕事をすることで経費節減になります。一人一人の工夫が良い結果を生み出します。今、危惧しているのは繁茂しすぎた竹林の荒廃化。周囲の景観のマイナスイメージにつながるので、手入れを推進したいと思います。



南佐渡森林組合
代表理事組合長 大場 文夫

① 松くい虫被害木の伐倒作業中。木の重心が左にあるので、右側に集積するためにはロープで木を右側に引っ張り、伐倒方向を変える必要がある ② 左から森林技術員の中川友樹さんと渡辺勝芳さん ③ 伐倒した被害木は1メートルの長さでそろえて玉切りして集積、くん蒸する ④ 松くい虫被害を受けた木にはカミキリムシの幼虫が潜んでいる。伐倒・駆除を行うことで翌年の被害発生を防ぐ



【その他認定事業体】

㉓ 岩佐木材有限会社
住所／村上市府屋197番地11
電話／0254-77-2041
主な業務／森林整備、素材生産、架線搬出

㉔ 高根生産森林組合
住所／村上市高根804番地1
電話／0254-73-0265
主な業務／森林整備、素材生産、
特用林産物等生産・販売

㉕ 有限会社 山作
住所／村上市山屋1715番地2
電話／0254-66-7345
主な業務／森林整備、特殊伐採、緑化造園

㉖ 有限会社 丸実
住所／村上市桃川1085番地1
電話／0254-66-5628
主な業務／森林整備、薪・きのこ原木生産、
総合建設業、森林作業道作設、
里山づくり

㉗ カネか渡辺建材株式会社
住所／村上市今宿45番4
電話／0254-66-5328
主な業務／森林整備、素材生産

㉘ 有限会社 阿部林業工務店
住所／村上市松沢143番地
電話／0254-66-6440
主な業務／森林整備、素材生産

㉙ 若月建設株式会社
住所／新発田市小戸1305番地
電話／0254-31-4111
主な業務／森林整備、薪・粗朶生産・販売、
素材生産、特殊伐採、架線搬出、
病虫害防除、総合建設業

㉚ 有限会社 中惣林業
住所／東蒲原郡阿賀町綱木2029番地
電話／0254-99-3446
主な業務／森林整備、緑化造園、病虫害防除

㉛ 有限会社 馬場工務店
住所／東蒲原郡阿賀町細越534番地
電話／0254-99-3592
主な業務／森林整備、特殊伐採

㉜ 株式会社 マルワイ
住所／東蒲原郡阿賀町日野川乙1889番地
電話／0254-95-2264
主な業務／森林整備、特殊伐採、架線搬出

㉝ 新潟県森林組合連合会
住所／新潟市西区曽和521番地3
電話／025-261-7111
主な業務／森林整備、木材販売

㉞ 株式会社 マルユー
住所／加茂市幸町1丁目2番22号
電話／0250-58-8688
主な業務／製材業、森林整備、木工品販売

㉟ 株式会社 戸田組
住所／魚沼市葎沢204番地8
電話／025-792-0417
主な業務／森林整備、特殊伐採、
広葉樹大径木伐採、薪生産、架線搬出

㊱ 株式会社 村山土建
住所／十日町市山本71番地1
電話／025-752-3721
主な業務／森林整備、測量設計、総合建設業

㊲ 株式会社 見晴屋林業
住所／南魚沼郡湯沢町大字三国1102番地1
電話／025-789-3493
主な業務／森林整備、特殊伐採

㊳ 株式会社 牛木組
住所／上越市名立区名立大町1630番地1
電話／025-537-2316
主な業務／森林整備、きのこ原木生産、
総合建設業

㊴ 株式会社 和信建設
住所／妙高市大字杉野沢1675番地1
電話／0255-86-6245
主な業務／森林整備、総合建設業、造林一般

■認定事業体とは……

林業に従事する中で、雇用管理の改善と事業の合理化などの「改善計画」を作成し、新潟県知事の認定を受けた事業体のことです。

平成26年1月1日現在



【森林組合】

① 村上市森林組合
住所／村上市府屋121番地2
電話／0254-77-3121
主な業務／森林整備、木材加工、架線搬出

② いわふね森林組合
住所／村上市羽黒町2番38号
電話／0254-52-1593
主な業務／森林整備、小径木加工、特殊伐採

③ 関川村森林組合
住所／岩船郡関川村大字上関1021番地3
電話／0254-64-1249
主な業務／森林整備、素材生産、きのこ生産

④ さくら森林組合
住所／新発田市中倉48番地2
電話／0254-29-0600
主な業務／森林整備、特殊伐採、病虫害防除

⑤ 東蒲原郡森林組合
住所／東蒲原郡阿賀町両郷乙515番地
電話／0254-95-2016
主な業務／森林整備、木材加工

⑥ 中蒲みどり森林組合
住所／五泉市村松工業団地2丁目1566番地2
電話／0250-58-7824
主な業務／森林整備、木材販売、素材生産

⑦ 南蒲原森林組合
住所／加茂市大字下高柳字出戸1番地1
電話／0256-53-0080
主な業務／森林整備、特殊伐採、架線搬出

⑧ 中越よつば森林組合
住所／長岡市雲出町字前田4421番地
電話／0258-21-4525
主な業務／森林整備、特殊伐採、木材販売加工

⑨ 柏崎地域森林組合
住所／柏崎市三和町9番22号
電話／0257-22-6212
主な業務／森林整備、特殊伐採、病虫害防除

⑩ 魚沼市森林組合
住所／魚沼市細野208番地1
電話／025-797-2142
主な業務／森林整備、特殊伐採、食品加工

⑪ 湯之谷地域森林組合
住所／魚沼市湯之谷芋川1568番地
電話／025-792-2562
主な業務／森林整備、特殊伐採、病虫害防除

⑫ 南魚沼森林組合
住所／南魚沼市舞子1819番地
電話／025-783-3349
主な業務／森林整備、特殊伐採、木材加工

⑬ 十日町地域森林組合
住所／十日町市大黒沢1789番地1
電話／025-758-3115
主な業務／森林整備、特殊伐採、食品加工

⑭ 津南町森林組合
住所／中魚沼郡津南町大字中深見乙2176番地
電話／025-765-2510
主な業務／森林整備、特殊伐採、広葉樹大径木伐採、食品加工

⑮ ゆきぐに森林組合
住所／上越市大島区棚岡1569番地1
電話／025-594-2041
主な業務／森林整備、なめこの生産と販売

新潟県認定事業体一覧

【森林組合・その他認定事業体】



にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine Vol.2

2014年3月28日 発行

2014年5月29日 第2刷 発行

発行・監修／新潟県 農林水産部 林政課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 ☎025-285-5511(代)

公益社団法人 新潟県農林公社「新潟県林業労働力確保支援センター」

〒950-0965 新潟市中央区新光町15-2 公社総合ビル5階 ☎025-285-7711

取材・編集／株式会社ジョイフルタウン

〒951-8544 新潟市中央区白山浦1丁目613 ☎025-233-4501

Writer : 桑原知子

Photograph : 中沢真二

Design : 野股正成、藤間絵美

Coordinator : 笹川清彦

Accountant : 山田節子

Producer : 棚橋和博

印刷／株式会社 第一印刷所

※本冊子は平成25年度「素材生産情報発信事業」で制作されました。

●本書出版にあたり、取材等を通じて県内各認定事業者様より多大なるご協力をいただきました。
この場を借りて改めて御礼申し上げます。

【本書の一部あるいは全部について、無断で複写、複製、転載することを禁じます】



★新潟県的林業に興味を持った方は

公益社団法人 新潟県農林公社「新潟県林業労働力確保支援センター」のHPをチェック!!

<http://www.niigata-rinrou.com/>

新潟 林業 センター

検索